

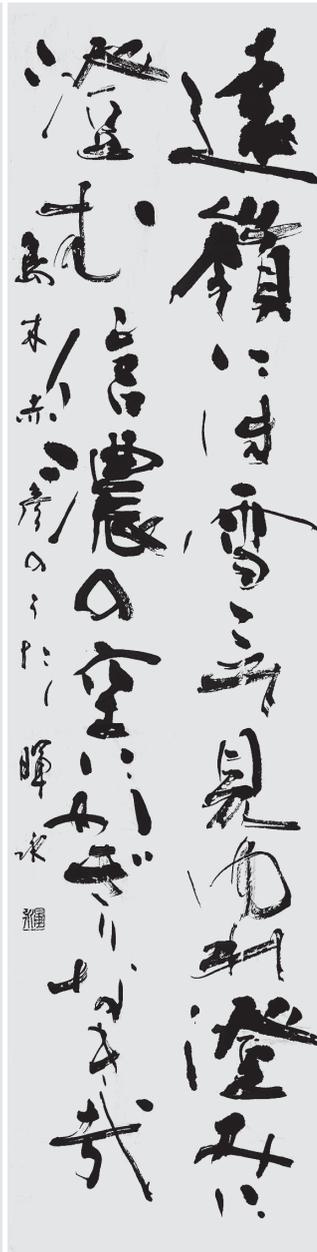
江幡太瓏先生選評



二塚花雪 推選
 独特の雰囲気、大小、太細の潤渇の妙ですね。ここまでの渇筆はなかなか出せません。ならば「かぎり」でも大胆な渇筆が観たかったです。センス抜群天晴です！



鯨井麦瑠 推選
 この力強くどっしりとした隸書作品には何本か観られるあまりにも細い線は必要ないかと思いますが、どお？ 慌てず潤渇もいいですね。最後少し大きかったかな。

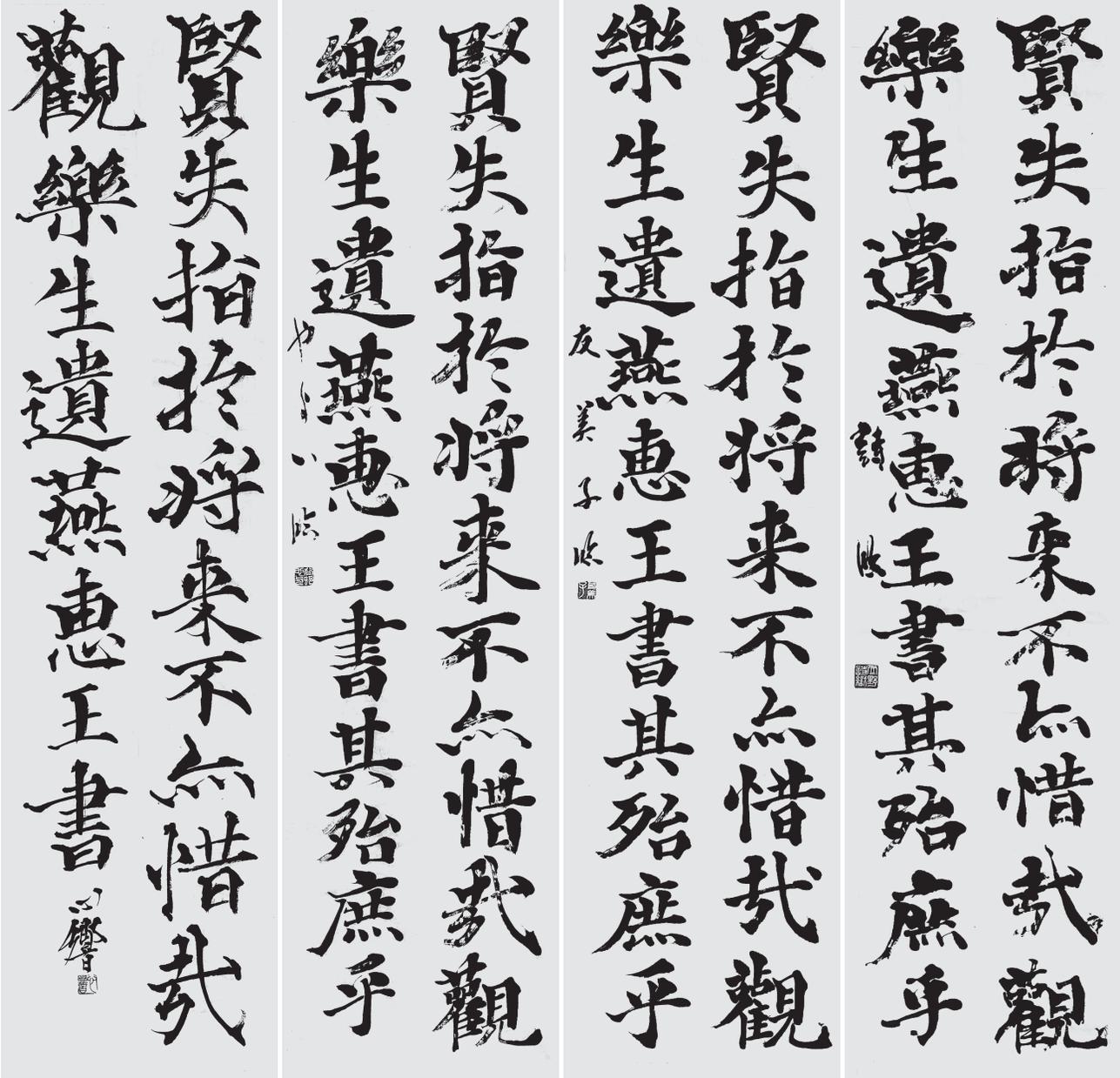


桑子暉永 推選
 潤渇、白の美しさ申し分ないですね！横への広がりを感じた線、字形が魅力です。落款も本文とマッチしていて素敵です。「そ」読みにくい。補筆しなかったね。



大根田静波 推選
 落筆高くリズム感抜群で仮名の表情、力強さが際立ちます。転折の角度にも変化工夫があり見事です。落款、最近の詩文書は「書」を書かない事が多い様です。

桜井辰雄先生選評



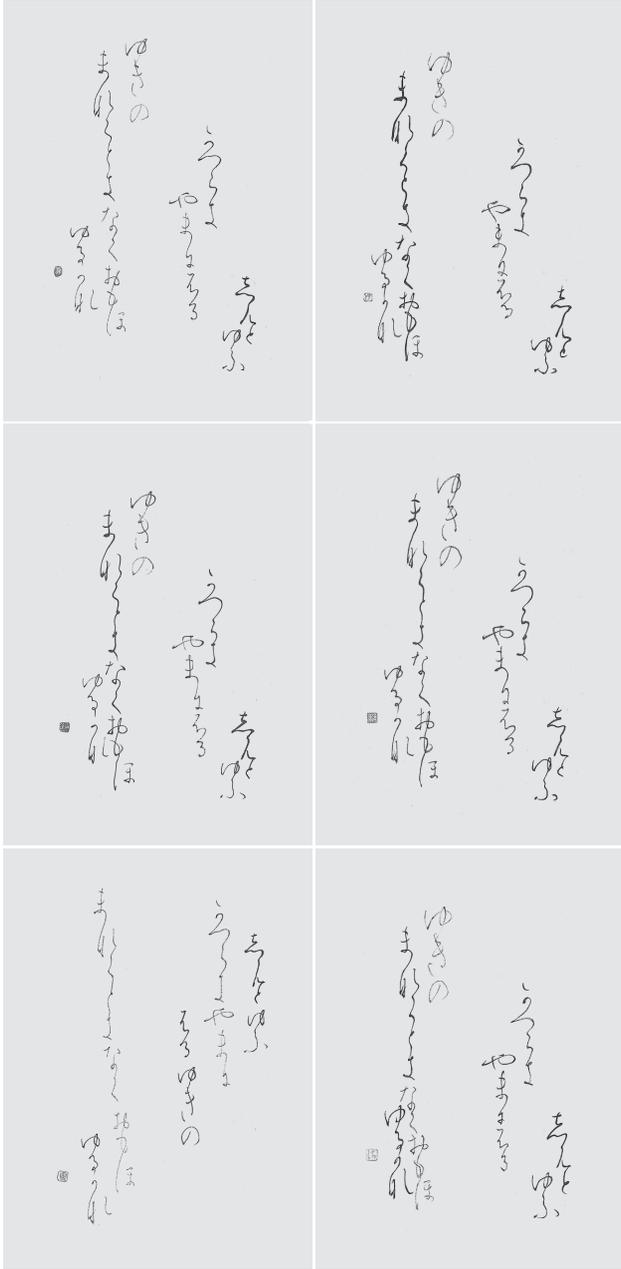
大野 詩 推選
 少々斜に構えながらもキリリと羊毛筆を立て、紙の繊維を纏わせながら淀みなく進む筆路は厳しくもあり暖か味さえ感じ、軌跡を追うあまりに心奪われてしまう。

杉原 友美子 推選
 行意を内在する楷書表現に長けた方であろう。起筆から収筆まで、きめ細かな観察と運筆の正確さとに裏付けされた素直な筆跡が、背筋を正させる作品にした。

谷村 やよい 推選
 柔らかく握られた羊毛筆がしつかりと紙面を捉え、軽妙洒脱な表情をも交えながら、遅速、浮沈等の鍛えられた書技力が紡いだ秀作。落款が軽すぎたのは残念。

近藤 心響 推選
 法帖から得られた感情が書者の体内で処理され、腰の強い長鋒を握った腕がピンピンと、運腕大きく大胆かつ具に表現した秀作。落款は雅号+臨+印だろうか。

赤富士北祭先生選評



伊藤幽昇 八段
ゆつたりとした運筆で呼吸の長い線質が魅力的な作。細身の線ですがほのかなあたたか味を感じさせる境地の高い作。古筆の読み取りも良い。

永田由美子 七段
場面の変化をよく表現しながら立体感のある作に仕上げた。転折を決めながら適度に引き締まった線とソフトな表現のバランスも良く美しい。

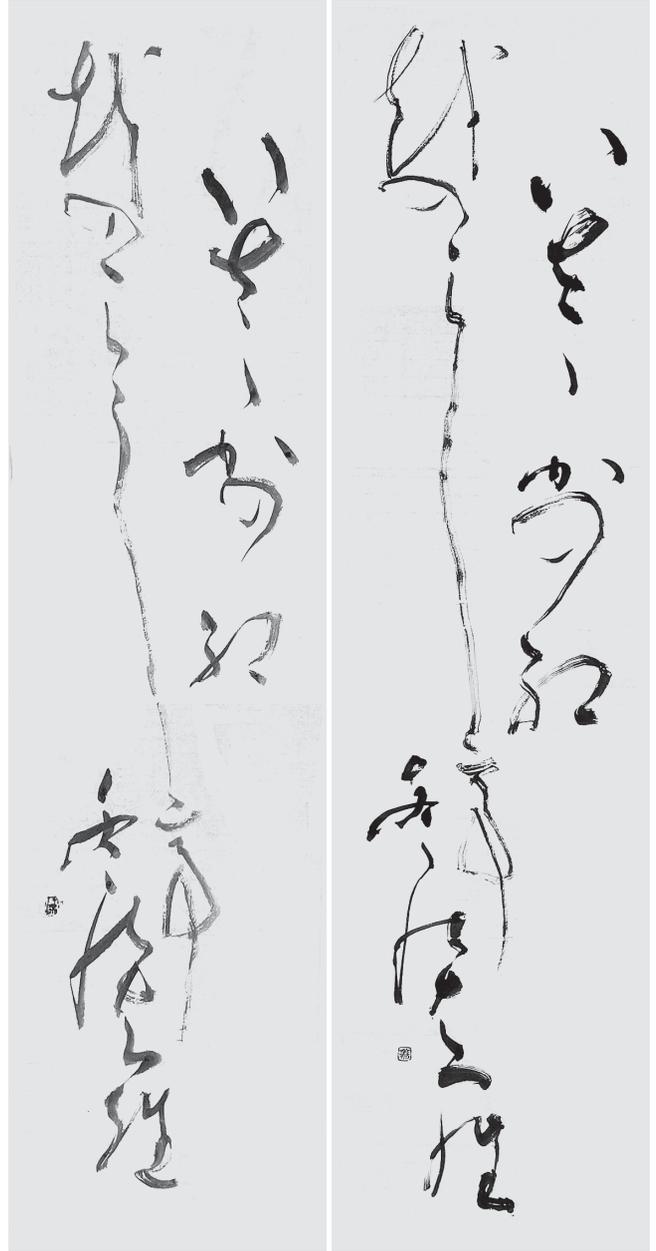
岩本ゆき子 六段
原帖の墨継ぎを生かしながら構成を工夫した作。よく観察して明るい作に仕上げたが、四句目で動きを出せると創作につながって行きます。

松下晃子 師範
細字ながら厚みのある線の表情が作品としての立体感を生んでいる。浮沈の変化もあり、豊かさのある臨書作品に仕上がりました。

半田都志 師範
高野切第一種が持つ風格を見ながら臨書作品。直筆を主体としながら緩急の変化もあり、ゆるぎない臨書姿勢に心から拍手を送ります。

大鈴佐智子 八段
冴えのある線質で潤渇の変化を生かしながら、作品としての奥行きをよく表現している。原帖の雰囲気を感じる作。行立てもよく余白も美しい作。

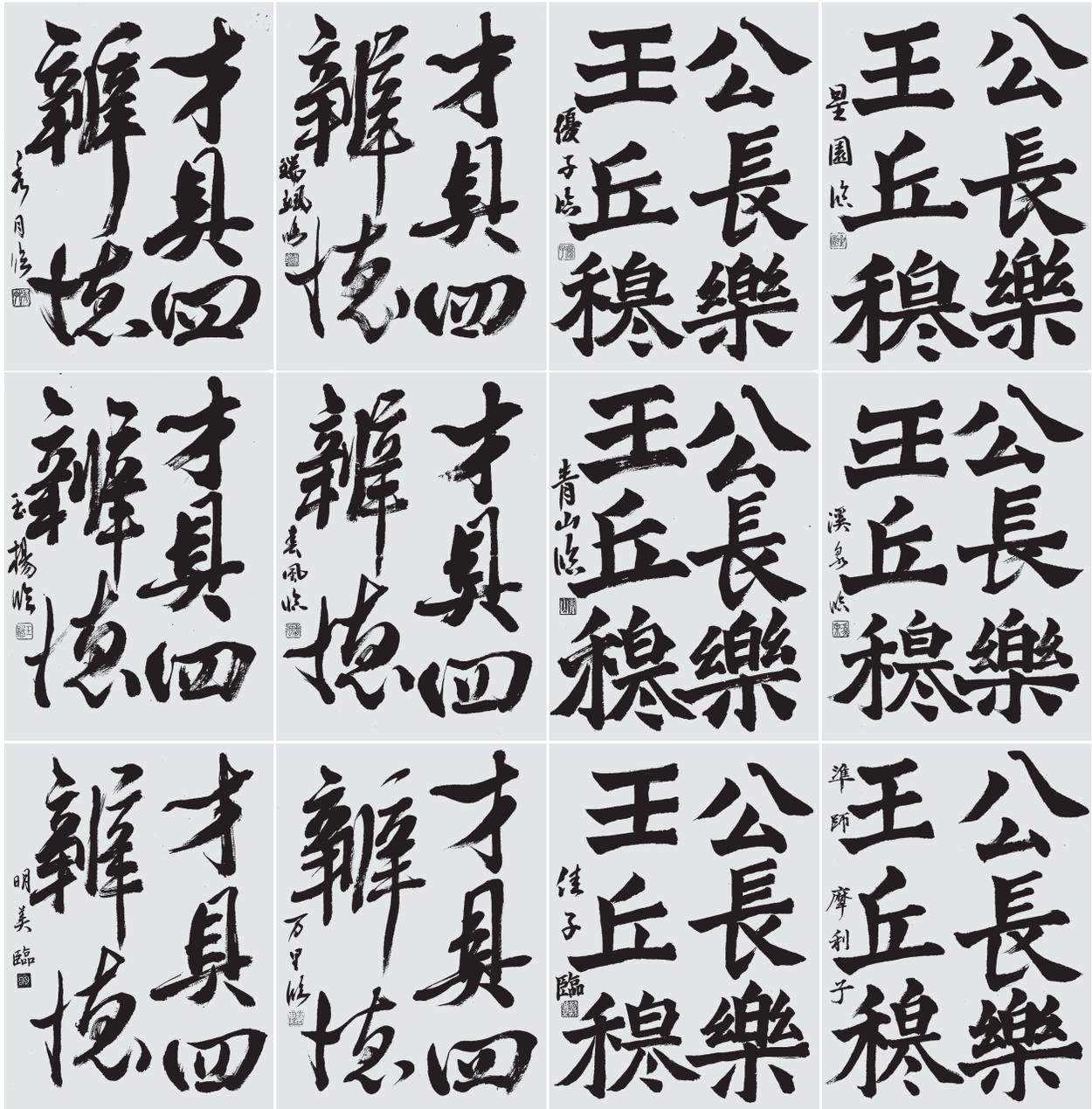
佐々木優子先生選評



坂本千陽 推選
墨色、紙、線質が実に上手く調和された作品です。肌突き刺さるような寒さを線質で表現され、澄みきった空気の中に咲く冬の薔薇が見えるようです。

土永敬子 推選
躍動感に溢れ運腕大きくリズムに乗り、線質変化巧みに表現され、迫力ある息遣いが伝わります。二行目の渴筆と終句が見事に響き合い余白の美しい作品です。

葛西玄涛先生選評



田中星園 師範
起筆の強さと角度が、どの線も適切で同様となり、安定した線ばかりである。臨書の基本の一つ、線を分析して表現することが顕著に出ている。

田窪優子 準六
文字の特徴を探求して、形だけでなく線の強弱、太細なども忠実な臨書となった。細部を研究しても作品として、美しさと明るさがあり、佳い。

丸山瑞颯 師範
筆先で軽妙な線と筆の中心に沈み込む重厚な線を巧みに使い分けて、華やかな香りがいっぱいある作品だ。半紙の面にこの見応えを作る技が光る。

瀧美秀月 七段
筆圧を強めにしながらも毛筆の弾力を有効に使って、迫力のある重厚な線をたくさん使っている。ほとんどが直筆なので、円みのある線が多い。

オレニツ子深泉 師範
それぞれの線に強い弾性を感じる。特に長い線は、中間で細くなる原本の特徴を巧く出しつつ強い線を引いています。運筆の速度変化が理想的。

佐藤青山 四段
豪快な作風に心惹かれ、今回も選びました。雅号から箱根駅伝王者が浮かび、作品は王者の風格が漂う。好調を続け活躍してください。期待大。

村上春風 師範
しつとりと沈む線が静寂となつて心を打つ。細かな線の動きがあつても冷静な筆運びで、作品全体の印象と協調した。高水準の作品に感動した。

岩崎玉楊 四段
速く引いた鋭い線が、勢いよく紙面を走り、圧倒されます。原本をよく観察していて、この速度で書いても字形がとても近いことに驚きました。

稲邊摩利子 準師
伸びやかな線が、紙面いっぱい広がって、爽快感に溢れている。短い線の起筆にも細やかな神経で取り組んで、良く観察して書かれています。

村林佳子 二段
落ち着きのある優しい筆運びに好感です。雲一つ無い空のように澄んだ線が、長短に関係なく引かれている腕の構えと呼吸に乱れが無いからだ。

鈴森万里子 準八
細めの線と鋭い直線から、緊張感を生んだ。余白の白を切り裂くような線は、多くの作品に生かすことが出来そうです。今後を期待しています。

久保明美 二段
軽重の変化を楽しむ作だ。湯筆を混ぜた直線や曲線と速い線が、適所にあり、文字の中に大きな動きの変化がある。芸術性が高く素晴らしい。